鹿児島県最大の太陽光発電所建設に反対

中村満雄（霧島虎ヶ尾岡メガソーラー建設反対協議会代表）

消費者レポート５月号

私の家の近くの急傾斜地は、過去にも水害が多発し、シラスの中に大きな石がごろごろしている場所です。ここに、市長も、市議会も、地元の守り神の霧島神宮も、焼酎蔵も、病院も、老人ホームも、漁協も、水利組合も、全て反対している太陽光発電所建設計画が進行中です。

この計画は、鹿児島県で最大出力の80メガワットで自然破壊も最大級です。地域こぞっての反対意見がありながら、事業者は建設の意思を変えません。これから環境影響調査、知事に対する申請など、法令に定められた手続きに進みます。許認可権限を持つと言われる県は申請書類の形式を満たしていれば受け付けます。霧島市長は県から意見を求められる都度、反対意見を述べるとしていますが、県は耳を貸すかはわかりません。

この４月には、地域の反対意思を表明した16団体の不同意書を知事に提出し、県内全てのマスコミの取材を受けました。鹿児島県民は今後の動向を注目しています。

福島の原発事故を契機に、それに替わるエネルギー源の一つとして太陽光発電は極めて高い買取価格が設定されました。金に群がる外資を含めた企業群が一斉に参入し、自然破壊の非難をどこ吹く風と聞き流し建設を進めています。それを認識しつつも、国、地方自治体は歯止めを掛けるどころか、太陽光発電事業者を支援していると思えるような動きが全国にあります。

今年の1月、太陽光発電所建設による環境破壊を全国的な問題と認識する18団体が東京・中野に集結し、問題点を共有し、環境省、経産省に提言文書を提出しました。

太陽光発電比率が最も高い九州電力は４月６日、２４８万キロワットの太陽光発電の出力抑制を実施しました。川内原発１基の出力は89万キロワットであり、その大きさが測れます。出力抑制は大規模停電を回避する目的で実施されますが、それでも儲かる事から今後も建設が進みそうです。